



北翔大学

教育文化学部 心理カウンセリング学科

小坂守孝 (こさか もりたか)

所在地：江別市文京台 23

<http://www.hokusho-u.ac.jp/>

Profile—こさか もりたか

北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科教授、学科長。専門は臨床心理学、産業心理学、コミュニティ心理学。著書は『よくわかるコミュニティ心理学』（共著、ミネルヴァ書房）、『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版会）など。



はじめに

北翔大学は北海道江別市にあります。道外の方にとって江別はなかなか馴染みがないかもしれませんが、実は札幌市のすぐ東に隣接しており、特に本学のある文京台地区は江別市の中でも最も札幌寄りにあります。本学へはJRと札幌市営地下鉄のターミナルである新札幌からはバスで10分、そして札幌駅からJRで12分の函館本線大森（おおおさ）駅からは徒歩で15分と、札幌市内からのアクセスに優れています。

本学は1939（昭和14）年に「職業的技能と幅広い教養を身につけた自立できる社会人の育成」を「建学の精神」とした「北海道レスメーカー女学園」として創設された後に、1963（昭和38）年「北海道女子短期大学」として開学50年強の歴史があります。現在は、生涯スポーツ学部、教育文化学部、短期大学部の3学部からなる大学として、大学院・大学・短期大学を含め約2000人の学生が学んでいます。

江別市は古くから煉瓦の生産で有名な街です。本学のある校舎にはその名物の煉瓦が随所に使われており、北海道の歴史を感じられます。また学内には緑も溢れており、春から夏にかけてはキャンパスの中を歩いていると草の匂いを味わうことができ、秋には駐車場の傍らにある雑木林で紅葉を楽しむことができます。そして12

月から3月末頃までの銀世界を含め、四季の変化を豊かに感じることができるのは本学のキャンパスの魅力の一つです。

本学での学び

本学において心理学の学べる学科が発足したのは2001（平成13）年のことでしたが、筆者が所属する心理カウンセリング学科は2014（平成26）年度の改組により新たに開設された学科であり、心理学と精神保健福祉学を学びの軸としているところに大きな特徴があります。本学での学びの特徴としては、「入学前教育」「基礎・教養科目」「専門科目」「発展科目」「就業力養成科目」という5つの教育フレームにより入学前から資格取得・就職までをサポートしているところにあります。心理カウンセリング学科としての入学前支援プログラムとしては、大学生活への準備に役立ててもらうために本学で学んでいる先輩や卒業生のナマの声をきいてもらう機会を設けています。また、基礎・教養科目としては、ゼミ形式での必修科目により大学での学びのための基礎を整えられるようになっております。また学外での宿泊研修を通し、同期同士や教員との間の交流を図るようにしています。専門科目としては、臨床心理学を中心に心理学の幅広い科目を用意してあるほか、精神保健福祉士の国家試験受験のためのカリキュラムもあります。発展科目としては、より

一般教養を深めることを目的として各学科における入門的内容の講義を学科に関係なく履修できるようになっています。そして、就業力養成科目については、自らの特性を見極め、将来に向けて進路選択が滞りなくできるようになるための科目群を用意しています。

学生は入学から卒業まで何らかのゼミに所属することとなります。1年次では基礎教育を深めることを主な目的としております。そして2年次においては共同研究を中心として来たる卒業研究のための準備を進め、3～4年次では卒業研究を指導する教員のもとで研究発表の準備を進めることとなります。

上記のゼミと並行し、専門科目についても1年次より心理学・精神保健福祉学の学びが始まります。2年次までは各専門の基礎的科目が中心ですが、3年次までには演習科目により、体験的な学びも深めてゆくことになります。頭で理解するだけでなく、身体を動かすことにより、実学としての



写真1 学食から見た風景。札幌方面を一望できる。

理解を深めてゆきます。

心理カウンセリング学科所属教員

本学科には、学科長である筆者（臨床心理学・産業心理学・コミュニティ心理学）、風間雅江教授（障害者心理学・コミュニケーション心理学・臨床心理学）、大宮司信教授（精神医学）、武藤福保教授（睡眠医学・精神医学）、今井博康教授（精神科ソーシャルワーク・精神保健福祉）、飯田昭人准教授（臨床心理学）、澤聡一准教授（臨床心理学・青年心理学・スクールカウンセリング）、新川貴紀准教授（臨床心理学・発達心理学・子どもの心理療法）、橋本菊次郎准教授（精神障害リハビリテーション）、寺田香講師（医療ソーシャルワーク論・相談援助技術論）がおり、精神科医師、臨床心理士、PSW、MSWの集団で構成されています。全員が現場の第一線でも活躍しており、リアルタイムの生きたエッセンスを講義でも学生に伝えようと日々努力しております。詳細につきましては本学ホームページの専任教員一覧をご覧ください。

取得可能な資格

本学科では多種多様な資格を取得することができます。代表的なものとしては精神保健福祉士国家試験受験資格がありますが、こちらを取得するには施設での実習が必要であり、その準備も含め1年次より計画的に科目を履修することが求められます。学内では国家試験受験対策講座も実施されており、資格取得に向け手厚いサポート体制を敷いております。

また、必要な単位を受講することにより、心理学を学んだ証になるものとして認定心理士や福祉心理士を取得することができます。そして任用資格としては社会福祉主事、社会教育主事、児童福祉司、

児童指導員があります。さらに、卒業後の研修等が必要になります。が、産業カウンセラー初級受験資格取得への道も開かれています。

大学院での学び

本学大学院人間福祉学研究科臨床心理学専攻（修士課程）は臨床心理士養成のための第一種指定校となっており、修了後に臨床心理士試験の受験資格が得られます。こちらの専攻では、心理カウンセリング学科のうち風間教授、武藤教授、飯田准教授、澤准教授、新川准教授と筆者に加え、客員教授として日本臨床心理士会会長である村瀬嘉代子教授がおり、社会に求められかつ即戦力となる心理職の育成に努めています。基礎心理学領域と臨床心理学領域の講義、臨床心理学専攻附属の臨床心理センターにおける学内実習に加え、学外の病院・児童養護施設等での実習をこなしながら修士論文の作成を行なうため、非常に濃密な「忙しい」2年間となります。教員側としては修了後も臨床心理士試験のための受験対策講座を実施するなどアフターケアに努めております。

卒業後の進路

心理カウンセリング学科として発足してからまだ2年ですが、従来からある心理学・精神保健福祉学を学ぶ学科における進路決定率は心理学関連でも精神保健福祉関連でもおおかた9割以上となっております。特に、精神保健福祉士を取得した場合の就職率は100パーセントとなっています。就職先としては、主に医療・福祉機関として病院・クリニック、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障害福祉サービス事業所などがあり、公的機関・一般企業等では人材派遣業、生命保険、食品関係、医療機器、家電量販店、ホテル

などの観光業、教育委員会などがあります。そして先述の通り、毎年数名は大学院に進学した後に病院等で臨床心理士として活躍しています。

おわりに

「心理学の知識は就職に役に立つの？」という疑問が寄せられることがあります。心理学の学びを通して豊かなコミュニケーション能力、人間を理解する力、共感する力、感情をコントロールする力など、まさに一般企業のみならず社会で求められる力が培われます。心理カウンセリング学科では85の専門科目を通して「こころ」について幅広く学ぶことができます。本学で学ぶ学生には、自分のこころ、そして人のこころについて深く知り、これからの人生に役立つ様々な素養を身につけ、社会に羽ばたいてほしいと思います。そして、こころの支援に携わる様々な領域で活躍することを願っています。

本学で実施している年に数回のオープンキャンパスでは、可能な限り学科教員総出で学科の説明をさせて頂いているほか、模擬講義を持ちまわりで行っており、参加頂くことで本学での学びのイメージを深めて頂くことができますので、ぜひ一度お越し頂けたら幸いです。



写真2 1年生の宿泊研修。羊蹄山をバックに。